



 **標茶町**

発行 標茶町農業委員会
 編集 広報委員会
 川上郡標茶町川上4丁目2番地
 電話 485-2111
 (内線171・172)
 FAX 485-4111

農業委員会だより



農地パトロールの様子

主な内容

2018年標茶町産業まつりに参加して……………	P. 2
農地利用状況調査を実施して……………	P. 2
農業委員視察研修会参加報告 (Kalm 角山牧場)……………	P. 2
東北・北海道 農業活性化フォーラムに参加して……………	P. 3
農業者年金に加入しませんか……………	P. 4
ソーラーパネル発電設備の設置を検討されている方へ……………	P. 4
編集後記……………	P. 4



農業委員会総会は毎月 25 日に開催を予定しています

◆ 許可申請書、農用地利用集積計画の申出、現況証明願書は、
 当月の10日までに農業委員会に提出してください。

標茶町産業まつりを終えて

今年の産業まつりは、2年ぶりに釧路川河川敷での開催となり、天候にも恵まれ、かなりの参加者が訪れました。町長の挨拶の中でも「今までにない」と発言されていました。以前、私も産業まつりの趣旨や目的も分らず、参加することも少なかったのですが、委員会活動を通じて5年目の参加になりました。以前の私たちのブースは、標茶の歴史の古い写真や家族経営協定の様子、牛乳の健康効果のパネル展を行っていましたが、今年は標茶産の牛乳の試飲とチーズの試食を行い美味しとの声が連発！そして、新たな試みとして他のブースにはないものとして、標茶産の牛乳とバターを使いまして、「フレンチトースト」の販売を企画立案いたしました。



標茶町産業まつり農業委員会スペース



アンケートの様子

特に女性委員やスタッフには段取りよく進めていただいたことに、頭が下がる思いです。

自分は試食時にアドバイスをしたのですが、当日は、声かけに徹しました。たまたま交代でホットプレートの番をして、会長と焼いていましたら、さつきまで盛況だったのになぜか閑古鳥(笑)販売の難しさを痛感しながら良い経験をさせていただきました。

再度買ってくれるリピーターや、まとめ買いしていく方もいました。用意した300食も2時ころには完売！段取りのよさがわが委員会の団結力を感じました。もつと標茶の物を使った食品が多く宣伝できればよいですね。

牧草収穫が遅れている影響もあつてか、毎年行っている農業者アンケートの回答者を探すのに一苦労しながらも農地相談に訪れる人もおり、全体を通じて、農業委員会のブースは好評のうちに終わることができました。

来年の産業まつりも、お楽しみ企画を考えますので農業委員会一同、再会を心待ちにしております。

(農業委員 大泉 義明)

農地利用状況調査を実施して

10月を農地パトロールの月間として、我々委員は事務局と、4班に分けてそれぞれの地区を調査しました。今年も、納税猶予の特例を受けた農地を中心に、見回りましたが、みなさんまんべんなく使用されていますが、中には谷地のために幾度となく暗渠排水を施したが解消されずに放棄されている農地も散見されました。また、近年大型機械の草地の利便性を上げるため、造成拡張したために、特に水掘れによる決壊、流失する草地、道路等が目立って見られました。

(農業委員 澁谷 洋)



農地パトロールの様子

農業委員会研修に参加して
江別市 K a i m 角山農場

去る10月9日・10日の2日間にわたり、農業委員視察研修を行いました。視察先は、江別市の K a i m 角山・芽室町大野



授乳口ロボットの説明を受けている様子

ファームの2カ所でしたが、K a i m 角山牧場について、報告したいと思います。まず、会社の概要ですが、平成26年度に5戸の構成員で設立され、約15億円の資金を投入し480頭のフリーストール牛舎、バイオガスプラント等々の施設、搾乳ロボット8台が設置されています。現在、従業員は8名プラス構成員5名で仕事をしています。土地は約200ヘクタール所有し、乳牛を660頭飼っているそうです。突然ですが、K a i m (カーム) という意味がわかりますか。オランダ語で「穏やかな」「悠々とした」という意味らしいです。私はわかりませんが、皆さんはいかがですか。K a i m (カーム) この意味こそが会社の理念だそうです。

まず、牛乳バルク室ですが、20tバルクが目の前に現れ圧倒されました。すべてコンピューター制御されており、牛乳投入から洗浄に至るまで人の手いらずだそうです。

続いてメインともいえる搾乳ロボットですが、さすがに牛乳生産工場らしく8台がフル稼働していました。私自身ロボットによる搾乳は、見たことがなく、ただただロボットの賢さに感心させられました。フリーストール牛舎は、ごく普通である感じでした。ただガラスサイレージの水分の少なさが気になり、聞いてみますと、チューブパックで出来上がったサイレージは70%の水分があるので、60%以下に減水するとの事でした。減水方法は教えてもらえませんでした。60%以下にすると匂いが少なく食い込みがよくなることでした。これについては、実践価値がありかなと思っています。

続いてバイオガスプラントについて説明してもらいました。プラントで生産された電気はすべて売電ということでしたが、あまりにもスケールが大きく理解できないところが多々ありました。哺育施設も視察したかったのですが、防疫の関係で見学NGでしたが、初乳加湿器を使用し、すべて人の手による哺育だそうです。てっきり哺育ロボットを使っているだろうと思っていたので意外でした。

視察では、その都度、他の委員さんの質問にも快く答えてもらい大変ありがたかったです。その中でも資金返済についてのことです。Kalm角山さんでは、年間1億3千万円の返済だそうです。が、専務さん曰く収入が確保できれば怖くないと、とても前向きな発言には、頭が下がります。最後に興味がある方だけでも視察に行ってみてはいかがですか。世界観が変わるかもしれません。私自身もう一度視察できたらなと思っています。今回貴重な体験をさせてもらいます。

感謝します。

(農業委員 高橋 政寿)



Kalm 角山にて説明を受けている様子

東北・北海道 農業活性化フォーラムに参加して

8月24日に札幌市で開催された農業活性化フォーラムには、東北6県と北海道の各地から農業委員及び農地利用最適化推進委員1,200人が参加し、農業委員会組織・制度を取り巻く情勢、スマート農業を活用した農地の有効利用についての講演、各地の農業委員会活動の事例3件の発表がありました。

農業委員会を取り巻く情勢については、平成28年4月に改正農業委員会法が施行され今年の10月で全国の農業委員会が新たな体制に移行。改正後の農業委員会には農業委員とは別に農地利用の最適化推進を担う委員が新たに加わることとなることから体制の強化推進について全国農業会議所から現況と今後についての

説明がなされました。標茶町は改正法で農地最適化推進委員を置かなくてもよい地域とされていることから、農業委員のみで活動しております。

続いて、北海道大学大学院農学研究院の野口教授の講演では、いま農業が抱える問題として、農業者の高齢化や担い手不足など農業労働力の減少があり、その対策として、ロボット技術やICTなど先端技術を取り入れた超省力・高生産の農業経営が必要であることから、現在研究院で進めている「スマート農業を活用した農地の有効利用」についての講話があり、その内容は、「トラクターのロボット化」「無人車両」とGPS「農地の形状把握」を利用したシステム開発により無人でトラクターが農地の耕作などを可能とするマルチロボットトラクター開発の進捗について、実際に試験農場を走行する画像により説明がありました。また、今後の問題点としてトラクターの無人走行の認可承認や熟練農業者のノウハウ、農業ICT専門家の育成やそれぞれの地域の人でなければできないものなどが今後の課題として提起されました。



東北・北海道フォーラム会場

標茶町内でも酪農を営む上で農業従事者不足や高齢化・担い手不足などで農作業の省力化が必要となっておりますが、省力化を進めるため先端技術を搭載した高額な農業機械・器具の導入や牛舎の建設、また、農地の確保など、多額の負債を強いることとなります。それが酪農経営の足かせにならないか危惧するところでもあります。



東北・北海道フォーラムにて

最後に各地域の農業委員事例発表について紹介します。

初めに岩手県岩手町農業委員会農地利用最適化推進委員の農地集積・集約化の取り組みについては、農家台帳に関する調査・申告書を提出してもらい、農業規模の縮小・拡大など農業者の意向を把握することで農地の集積・集約化をスムーズに推進する活動を発表されました。

つぎに宮城県仙台市農業委員会の被災地農業復活までの道のりについては、東日本大震災で被災した農業者及び農地の再建・復興にかかる農業委員及び農業委

業試験場・農業会議・保険労務士・税理士による検討委員会を立ち上げ、様々な課題を克服し、また農地中間管理事業の



東北・北海道フォーラム会場前にて

員会の活動については、津波により農業の基盤であります農地や機械・器具が損壊し、何も無いところからの出発となり、農地の再建・ほ場の整備から経営基盤の強化に至るまでの取り組みについての発表がありました。仙台市農業委員の皆様には大変なご苦労があったと思います。次に北海道きたみらい農協の大規模な農地集積による地域農業を次世代へつなぐ挑戦については、置戸町の勝山地区が離農などにより集落の消滅の危機にひんする可能性が高く遊休農地が多く発生すると予測されることから、地区全体の畑作農家で「農地組合法人勝山グリーンファーム」を設立した事例報告がありました。この法人設立にむけ地区生産者・行政・JAに加えアドバイザーとして農

後押しで発足にこぎつけたそうです。今回の農業活性化フォーラムに参加して、農業を取り巻く情勢や課題・各地の農業委員会活動・先進技術を活用した様々な開発など初めて見聞きするものが多々ありました。今回の農業活性化フォーラムで得たものを今後の農業活性化活動に活かしていきたいと思えます。

(農業委員 熊谷 英二)

農業者年金に加入しませんか

農業者年金は、農業者のための公的な積立年金です。20歳以上60歳未満の国民年金第1号被保険者である農業者の方(年間60日以上農業に従事)ならごなたでも加入できます。これからの安心で豊かな将来設計のために、農業者年金の加入をお考えください。

○農業者年金のメリット

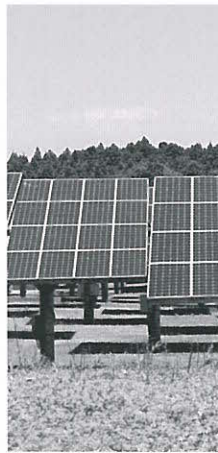
- ・少子・高齢時代に強い積立方式の年金
- ・終身年金で80歳までの保証つき
- ・支払った保険料は全額社会保険料控除の対象
- ・認定農業者など一定の要件を満たす方には、保険料の国庫補助もぜひご加入を検討ください。

詳しくは農業委員会事務局・標茶町農業協同組合農業振興課へお問い合わせください。

ソーラーパネル発電設備を検討されている方へ

農地にソーラーパネル発電設備の設置はできないことをご存知のことと思いますが、たとえ耕作していない部分といえども地目が畑・牧場の場合や農業振興区域内農用地区域に指定されている場合は、農地法や農業振興地域の整備に関する法律に基づく制限がある場合があります。設置を検討する際、その土地にどのような法律の網がかかっているのか、今一度ご確認ください。

ご相談は、農業委員会・役場農林課にて承ります。お気軽にご相談ください。



皆さんよろしくお願ひします

7月1日付で事務局職員に異動がありました。()内は前職名

- 任用する職員
- 振興係長

小幡 裕也

(住民課環境衛生係長)



編集後記

今年は去年と同じ天候を期待しつつ、春の作業開始予定でしたが、低温、長雨などで、作業開始が大幅に遅れ、また、低温があまりにも続きすぎ牧草収穫にも苦労されました。

1番草は全体として収穫量も少なく、2番草に期待をしていますが、7月から8月にかけての雨が続き、9月6日早朝の北海道胆振東部の震度7の地震による全道一斉の停電という、考えられないことが起こり、わが町でも大きな被害を受けました。搾乳農家さんは、特に甚大な被害を受けました。自家発電機さえあれば、被害は最小限に防げたかもしれませんが、全道が停電するなんてだれも考えていませんでした。廃棄した牛乳、乳房炎で死んだ牛も多く、それでも2番草の収穫をしなければならぬという大変なご苦労をされたことと思います。自然災害には勝てないけれど、皆さんの努力で作業は終わりましたが、牧草やデントコーンは量、質に不安が残りました。

さて、私たち農業委員会は、あつせん案件、利用集積、転用案件、農地パトロール、委員研修会等、しっかりと現地を見て、歩く調査をし、適正な判断をしていると思っておりますが、至らぬところがあれば、地元委員にお申しつけください。来年こそ、酪農、畜産業、畑作、良い年にしたいですね。

(広報委員 笹木 真一)